

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170700167		
法人名	有限会社 さわやか門前		
事業所名	グループホーム 門前		
所在地	佐賀県鹿島市古枝甲1650番地 (電 話) 0954-69-8208		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21 年 2 月 26 日	評価確定日	平成 21 年 4 月 14 日

【情報提供票より】(平成21年2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤 7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	7.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000~23,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 朝、昼食代に含む
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年2月15日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	1 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	88.9 歳	最低	80 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人犬塚病院、みやび歯科医院、寺尾歯科(訪問)
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅街の中にある、改修型のグループホームである。AEDが設置され、祐徳稲荷神社の参道から見るとところにステッカーが貼られ、ホームに直接関係のない人にも緊急時には使用してもらえるように配慮されており、近隣住民との関係性のよさと、地域に役に立ちたいとのホームの姿勢が感じられる。ホーム内は改修型ということで、スペースや、段差の面では十分ではない点も見られたが、使い込まれた家屋のいたるところに懐かしさを感じることができ、落ち着いた雰囲気のあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市町との連携については「認知症を知る会」の実施に伴い、関係が出てきている。同業者との交流を通じたサービスの向上については、必要性は感じておられたが、まだ実行には至っておらず、今後の取り組みが期待される。また、室内の段差など、ハード面の課題は構造上改修ができないところもあるが、職員全員で話し合い、安全な支援につなげていく工夫が望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>代表、管理者で自己評価を作成した後、全職員に回覧し、気づいた点を上げてもらうことにより、職員全員の気づきのヒントにしている。また、外部評価で指摘を受けた点は、できるだけ早く改善するよう取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>区長、民生委員、市町職員、家族代表など関係者の出席を募り、2ヶ月に1度開催され、そこでの意見を取り入れサービスの改善に取り組まれている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や、2ヶ月に1度の家族会の時に意見を言ってもらいやすい雰囲気作りに努められており、意見があった際にはサービス改善につなげられている。報告の機会は確保されているが、今後は園便りのような、書面での日常の報告が期待される。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームも隣保班に加わり、地区の行事に参加したりしている。また、地域住民に協力してもらいオカリナの演奏会を開いたりしている。入居者が一人で出て行かれた際には、近所の方が教えてくださったりして、地域との良い関係が形成されている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり楽しく、相手の気持ちを良く聞いて介護は見守りから」という独自の理念を作り上げ、地域に根ざしたグループホームを目指されている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りの時や、日々の職務の中で理念について話し合い、共有するよう努められている。新人職員にはミーティングの時に話され、理解を得るようにされている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームも隣保班に加わり、地区の行事に参加したり、回覧板のローテーションに入ったりと地域とのかかわりが持たれている。また、ホームに近所からオカリナの演奏に来てもらったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表、管理者で自己評価を作成した後、全職員に回覧し気づいた点を上げてもらうことにより、職員全員の気づきのヒントにしてもらっている。また、外部評価で指摘を受けた点は、できるだけ早く改善するよう取り組まれている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、市町職員、家族代表など関係者の出席を募り、2ヶ月に1度開催され、そこでの意見を取り入れサービスの改善に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との協働で地域住民を対象に「認知症を知る会」を催されており、地域の認知症の方の把握に努められている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の急変時などには、随時口頭で報告しており、家族会や面会時には直接日常の様子を伝えている。また、金銭管理については毎月書面にて報告している。	○	報告の機会は確保されているが、今後は園便りのような、書面での日常の報告が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、2ヶ月に1度の家族会の時に意見を言ってもらいやすい雰囲気作りに努められており、意見があった際にはサービス改善につなげられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職しないように、働きやすい環境作りに努められている。同法人事業所との合同行事の時にそれぞれのホームの職員と利用者が顔なじみになることにより、異動時のダメージを軽減するよう努められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所として、各職員に自発的に研修を受けるよう勧めている。希望があった際は、勤務の調整や参加費の補助により研修を受けやすくしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流していきたいとの思いはあるが、実行するまでに至っていない。	○	近隣や顔見知りの事業所と交流を図り、相互の向上ができる関係作りが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居初期には一時的に職員を増員して、新しい入居者への重点的なケアができるように配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の残存能力を活かすような関わりがなされている。また、職員とお互い喜怒哀楽を共にし、共に支えあい学び合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自らの意思を伝えられる入居者は少ないが、声かけをして、反応を見ながら本人の意向に沿う支援に心がけられている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族会などを活用し、本人、家族、職員、その他必要に応じて関係者を含め、協力して計画の作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成から3ヶ月でモニタリングを行い、必要に応じて変更など行っている。入居者に変化があった際や、退院後は随時計画の検討を行い対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や、日常の外出など状況や、個々の要望に合わせて柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を希望される場合はそのまま受診してもらい、その他は協力医をかかりつけ医としている。また、協力医には緊急時は、日曜祭日、時間外でも対応してもらえるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した際は、家族、医師などと十分話し合い、その後の方針を決定しているが、ホームとしての終末期における対応の方針は文書化されていない。	○	ホームとして、重度化した際や終末期の対応の方針を文書として整備されることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を損ねないよう、本人を否定しないような関わりを心がけている。また、個人情報も事務所にて管理し、流出など無いように保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常全般においてゆっくり過ごし、話をする事で本人の希望に沿った支援が行えるよう心がけられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けができる方には手伝ってもらったり、味見をしてもらって好みの味に近づけたりすることで食事が楽しみになるような支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各個人の希望を聞き、体調などを考慮し、本人の状況に合わせた支援が行われている。拒否などがある場合にも、声かけの工夫などで入浴してもらえるように努められている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム全体の行事としては、ピクニックや花見、イチゴ狩りに出かけたり、また、各個人の希望により散歩に出かけたり、楽しく日々を過ごせるように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に合わせ、外出している。また、一人で外に出ようとされる時は職員が付き添い、外出できるようにされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないよう決めており、各職員に鍵をかけない支援の必要性を説明し理解してもらうよう努められている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に1回、地元住民、消防署、消防団などに参加してもらい訓練を行っている。また、運営推進会議で地域からの提案により、火災時には外部スピーカーとサイレンで周囲に知らせるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立を記録し、メニューを決めるときはそれを参考に、栄養のバランスをとるようにしている。摂取量はチェック表を用い、確実に摂取できているか確認している。水分は時間を決めて十分な量が確保できるようにしており、飲まれない方は甘いものを勧めてみたり工夫して水分摂取してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間からは、季節の花や木が見え、音楽も聴けるようにし、心地よく過ごせるように工夫されている。	○	建物構造上改修ができない脱衣所、浴室などの段差については、職員が話し合い、より安全に利用できる方法を工夫することが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れたものや、愛着のあるものを持ってきてもらい、リラックスした環境で過ごしてもらえるように配慮されている。		